

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

3月&  
4月号

# 福玉便り

ふ く た ま だ よ り

2024年3月1日発行

通巻第107号

発行:『福玉便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



## 東日本大震災追悼式 黙祷の会 2024年3月11日(月)

日付:2024年3月11日(月) 場所:上尾市龍山院 雨の場合は本堂内にて開催致します。

時間:14:15 受付開始、焼香、追悼朗読、追悼演奏、式辞 14:46黙祷、撞鐘、記念事業

コロナウィルスの第5類引き下げにより、参列の際のマスク着用は各自の判断にてお願い致します。



協力:絵手紙 ふさの会、つなげよう花の心実行委員会、福玉便り編集部、さいたま共にあゆむ会

主催 東日本大震災に咲く会 ひまわり 問い合わせ 080-3091-6215(橘)

### 牛山先生による「甲状腺検査&よろず健康相談会」を開催します。

福玉支援センターで、定期的に行っている牛山元美先生による「甲状腺検査&よろず健康相談会」を実施します。どなたでも気軽にご参加ください。

日時:2024年3月10日(日) 13:30~16:30

場所:埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま) セミナー室 3,4

JR 京浜東北線、高崎線・宇都宮線「さいたま新都心駅」から徒歩5分  
JR 埼京線 (各駅停車)「北与野駅」から徒歩6分

お問い合わせや申し込みは、福玉支援センター (048-749-1677/080-4331-0290) まで。

主催:特定非営利活動法人埼玉広域避難者支援センター



福玉相談センター:電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)

メール: fukushima\_soudan@yahoo.co.jp 相談日:月~金 (9:30~16:30)



福玉相談センターの開所日は、月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の9:30~16:30です。なお、メールでの相談は随時行っております。こちらから折り返し、ご連絡しますので、差し支えなければ、連絡先をメールの文面に記入していただくようお願いいたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします

「if イナリヤマフェスタ実行委員会」の皆様から、今年もご寄付と読者の皆様へのメッセージをいただきました。ありがとうございました。

## 『福玉便り』読者（＝埼玉県内の避難者）の皆さまへ

こんにちは。

If イナリヤマフェスタ実行委員会の舟山です。

2023年10月8日（日）、狭山稲荷山公園で、「if イナリヤマフェスタ 2023」東日本大震災復興チャリティーと防災「そなえパークの日」のイベントを今年も無事終えることができました。

今回はコロナも5類となり、みなさまの笑顔がたくさん見ることができました！（来園者約1,500人）

37店のフード、クラフト、ワークショップも楽しんでいただけました。

また、東京家政大チームの復興支援展示ブース、発泡スチロールでできた防災用便座、キャンピングカー展示など防災関連ワークショップや、気仙沼のパン、大船渡のさんまなど食のブースもあり、狭山消防署より起震車体験や消防車両展示にもご協力いただき充実したイベントとなりました。

ステージでは、アイリッシュな音楽でスタートし、公園オリジナル曲の演奏、東京家政大、豊岡高校、入間向陽高校、JAZZ、沖縄の音楽が披露されました。

夕暮れの頃から東京家政大のボラガールさんを中心に、みんなで点灯した1,000個のキャンドルの中、実力派

If イナリヤマフェスタ実行委員会 委員長 舟山宏輝

のライブで踊ったり音楽に酔いしれながら、公園の一日を思い思いに楽しませていただきました♪

イベントで皆様にご協力いただいた収益の一部を、今年度は福玉さんに全額205,880円寄付させていただきました。

2年目も、皆さまとつながれたことをうれしく感じております。

If イナリヤマフェスタは東日本大震災復興のために震災直後に公園で何かできないかと実行委員会を立ち上げ、年に1回チャリティーイベントを開催しています。

If イナリヤマフェスタの回数をカウントするたびに、あれから13年たったんだと思返すことができます。復興もまだまだこれから続いていくと思います。少しでもお力になれば幸いです。

来年は、ぜひ公園のイベントにいらしていただいて、楽しい秋の一日をお過ごしいただけることを願っております。



## 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 原子力損害賠償に関する説明・個別相談会のご案内

- 開催日 令和6年3月9日（土）  
午前10時～午後4時【休憩：午前12時～午後1時】

- 会場 アットビジネスセンター池袋駅前別館 9階  
住所：東京都豊島区1-6-4 伊藤ビル ・ JR『池袋駅』東口より徒歩1分・ビックカメラ本店向かい ZARA 池袋店（輸入衣料品販売店）が入居しているビル9階◇駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

- 個別相談 10:00～16:00 弁護士による個別相談  
 原子力損害賠償全般のご相談に対応致します。  
 原則として、相談時間は1回1時間（時間予約制）

- 請求書作成支援 10:00～16:00  
行政書士による請求書作成支援  
 追加賠償の請求書をお持ちください。  
 請求書への記入はご自身でお願い致します。  
○個別相談・請求書作成支援どちらも  
※ 必ず事前予約をお願い致します。※相談は無料です。

- 専門家へご相談ください。  
・請求漏れがないか相談したいという方  
・住居確保費用の賠償について相談したい方

- ・ADRの申立てについて相談したい方 など

- 連絡先  
 ご相談をご希望の方は、事前予約をお願い致します。  
予約専用ダイヤル 0120-330-540  
受付時間：9:30～17:00 土日も受付（祝休日を除く）  
 ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用ください。  
電話相談ダイヤル 0120-013-814 対応時間：10:00～13:00、14:00～17:00 月曜～土曜（祝休日を除く）  
・行政書士による電話での情報提供（事前予約不要）  
・弁護士による電話での相談は、祝日を除く毎週火・木曜10:00～13:00（事前予約制）

- 中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償について  
中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償に関する最新の情報は、東京電力のWebサイト（右下のQRコード）で確認、又は、東京電力のご相談専用ダイヤルにお問い合わせください。  
東京電力ご相談専用ダイヤル 0120-926-470  
9:00～19:00（月～金（除く祝休日）） 9:00～17:00（土・日・祝休日）

# 津島 — 福島は語る・第二章 —

監督・撮影・編集・製作：土井敏邦 2024年・日本

「100年は帰れない」と言われた浪江町津島地区。帰還困難区域として、今も避難指示が解除されていない場所がほとんどです。その津島地区の静かな自然の風景、歴史ある写真などと交互に、人ひとりのインタビューが織り込まれる映画です。

津島地区には、空に天の川、川には蛍、風呂のあとに、橋で夕涼みをするような「お金じゃ買えない」暮らしがあり、自然と共に、人々が助け合いながら暮らしていました。

かつて開拓の歴史で貧しい暮らしをしてきた住民は「かぼちゃしか食べていなかった」ほど。協

力は、協力で地域が豊かになるための祈りです。早乙女役として踊

った住民は「自分が地域の人々の祈りの一部になった」と思い出し、身体中に溢れ

た「思い出し、涙ぐみ、だからこそ「悔しい」と語りま

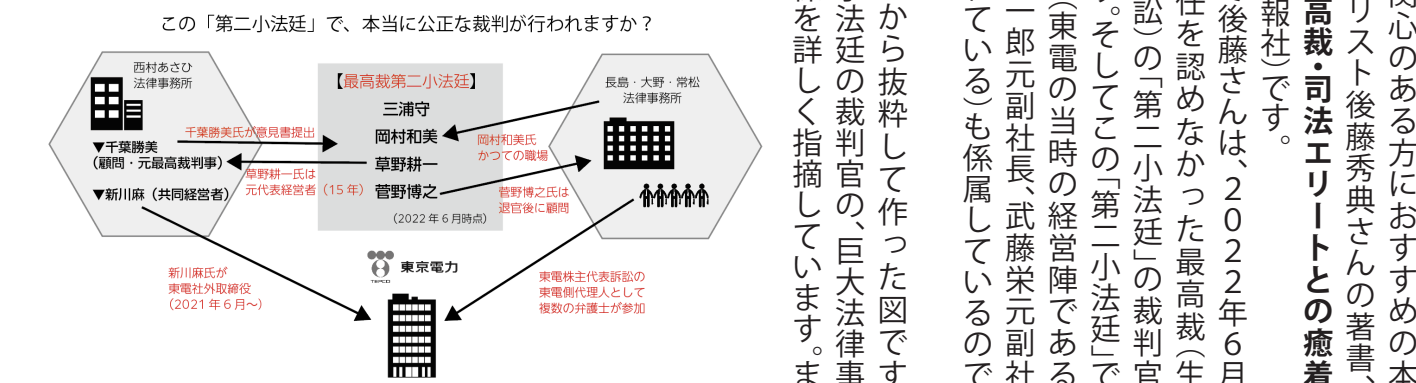
す。津島地区の住民が参加する裁判の原告団長、今野秀則

（元に戻すこと）を裁判所が認めない限りは「敗訴だ」と複雑さを滲ませます。除染のために膨大な税金が必要になり、経済効率性を考えれば不要なかもしれない

——そう躊躇いを見せつても「でも、そうやって一部を切り捨てていくのは違う」と今野さんは切々と訴えます。津島という一部の問題ではなく、日本・世界の共通のものだとも。ふと能登半島にも思いを馳せました。

津島の風景、静かな語りを通して、「命」「歴史」「人生」そしてこの「国のあり様」が見えてくるこの映画は、2024年3月2日(土)より、Kis cinema ほか全国順次公開されます。（編集部・吉田）

原発事故の裁判に関心のある方におすすめの本があります。ジャーナリスト後藤秀典さんの著書、『東京電力の変節 最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃』（旬報社）です。『東京電力の変節』で後藤さんは、2022年6月に原発事故の国の責任を認めなかった最高裁（生業・群馬・愛媛・千葉訴訟）の「第二小法廷」の裁判官について追っています。そしてこの「第二小法廷」では現在、東電刑事裁判（東電の当時の経営陣である勝俣恒久元会長、武黒一郎元副社長、武藤栄元副社長の刑事責任が問われている）も係属しているのです。



## 今年もWith Youやいたまフェスティバルに参加しました！

2月2(金)〜4日(日)の3日間にわたって開催されました。福玉支援センターは貪欲にも3種類の活動発表を行いました。

まず、【展示】では、福玉支援センターのこの一年間の活動を紹介しました。夏に開催した写真展、そして飯館村の映画のチラシやパンフレットを並べました。加えて、今年は故郷を遠く離れた地でつながりつつ暮らすことの大切さを伝えたいと思い、2団体から手芸品の販売を行いました。一つは、加須市の双葉町社会福祉協議会で毎月開催している手芸教室(カレンダー③)から自慢の作品を出品しました。手の込んだ刺し子の布巾やベストなどが人気でした。



売上は能登半島地震の義援金として募金します。もう一つは、薄井が縁あって知り合った「Gemini」という団体で、クルド女性たちへのオンライン日本語教室を開催しています。その活動支援になれば、と思います、今回お声かけしました。会場では色鮮やかな手作り品を手にとり、作者であるクルドの女性たちに「どのようにして作るの?」と話しかける人も多かったです。こうした小さなつながりの場が続くとを応援してくれた方々に感謝申し上げます。

次に【舞台発表】です。せっかくの舞台、大いにアピールしたいと思ひまして、箏メン大川義秋さんに出演をお願いしました。各地から集まってくれたファンの

方々はもちろんのこと、初めて聴いた方々もすっかり箏の演奏に魅了されました。箏の音色だけではなく、演奏の合間に大川さんが話してくれ

た双葉町からの避難体験とそれからの挑戦もまた観客の心に響いたことでしょうか。その体験をした自分だからこそ、これからも苦しんでいる人たちの心にそっと寄り添うような音を届けたい、と大川さん。出演依頼は昨年中でしたが、1月の能登半島地震が起こったことで、今回の演奏からより一層強い想いを感じましたし、聴いている私たちもまた深く受け止めて想いを馳せることができたように思います。そうした時間を創ってくれた大川さんに感謝いたします。(編集部 薄井)

続いて、【ワークショップ】では、埼玉広域避難者支援センターの薄井さんが司会をつとめ、ほっと岡山の服部育代さん、えひめ311の澤上幸子さんがそれぞれ、避難者の現状を語って下さいました。

冒頭、薄井さんからは、埼玉の現状として、避難者数が増え、実態とかなり違っていることが、支援にも関わること、正確な把握が重要であることが語られました。ほっと岡山の服部さんからは、西日本では福島からの

避難者よりも関東圏からの避難者が多いことが語られました。岡山県では844人(令和2年2月)の避難者がいますが、福島からは167人、関東・宮城・岩手からは566人の避難者がいるそうです。

原子力災害においては「遠くへ行きたい」という思いがあり、広島、沖縄、北海道、海外などへ避難した人がいることにも触れ、「広域避難はそもそも制度がない」という問題点を明らかにしました。そのため、定住移住支援策や地域創生事業等で「使えるものはなにか」と支援活動を行なってきたことを話しました。

避難した人たちにはアイデンティティの揺らぎがあり、「二人のわたし」「幽霊みたい」「ずっと住む気がしない」といった言葉を聞いてきたとそうです。それを一人の人格として支えていきたいと服部さん。「ずっと311が続いている気がする」「取り残された感じがする」といった避難者の胸の内を語りました。ジエントの視点からは、母子避難によって離婚をした人が生活困窮の問題に直面していること、DVや虐待の問題があること、無理やり精神科に

連れていかれた経験を持つ避難者さんのことなどを語り、複合的に苦しむ避難者が、どんどん口をつぐみ、孤立する姿にも触れました。

その孤立とは、「関係性」「将来性」「自律性」の喪失だといえます。かさぶたがくついたらばかりで、話せない、根をおろせない、先を見通せないといった言葉なども紹介されました。

えひめ311の澤上さんは、リモートで参加。自らも双葉町から愛媛県に避難したままであること、支える立場ではあるもの、お互い支え合っていること、などを話されました。

四国には避難者登録数は100人程度だと発表されていますが、実際には澤上さん



## 能登半島地震に関する提言書の提出

2024年1月1日の能登半島地震の発生後、1月9日に埼玉県庁が被災者向けに県営住宅30戸を無償提供することを発表しました。これを受けて1月15日、埼玉広域避難者支援センターから埼玉県知事および担当課に、感謝の念とともに、避難者支援に関する提言事項を提出しました。

東日本大震災後の広域避難者支援の経験から、能登半島地震に対して私たちとしてできることを、引き続き考えていきたいと思えます。ご意見などがありましたら、遠慮なくお寄せください。

2024年1月15日

埼玉県知事 大野元裕様  
埼玉県 危機管理防災部危機管理課 御中  
埼玉県 都市整備部住宅課 御中

特定非営利活動法人 埼玉広域避難者支援センター  
能登半島地震に伴う避難者支援の提言事項

貴庁の皆様には、この度の能登半島地震を受けて迅速な対応にご尽力いただいていること、深く感謝申し上げます。

私たちは、2011年3月の東日本大震災以来、埼玉県内の避難者支援に取り組んできた団体です。貴庁の様々な部署の皆様には、長期にわたって避難者支援へのご理解とご協力をいただいていること、改めて感謝申し上げます。

さて、1月9日の報道発表で、能登半島地震の被災者向けに県営住宅30戸を無償提供することを拝見しました。被災地では避難所での生活環境が厳しくなっており、感染症などのリスクも高まっていることから、公営住宅での受け入れを一早くご決断されたことに深く感謝申し上げます。一方で、東日本大震災後の避難者支援の経験を踏まえると、受け入れ直後の初動時に支援の体制を整備しておくことが、避難者の孤立や災害関連死を防ぐために極めて重要であると考えられます。

今回発表された公営住宅での避難者受け入れの効果を一層高めるために、ぜひ以下の事項を実現していただきたく、提言いたします。

### 1. 避難者名簿の作成に着手すること

これから県営住宅と県内21市町村(1月9日時点)の公営住宅で避難者の受け入れが始まりますが、この他に民間賃貸住宅や親戚・知人宅への避難も発生することが予想されます。

東日本大震災においては、公営住宅やみなし仮設住宅以外にも様々な形態での避難が発生して、貴庁・各市町村のご担当者や民間団体が避難者の把握・集計に苦慮することになりました。貴庁の主導によって避難者の登録制度を実施して、埼玉県内の避難者を網羅的に把握する名簿の作成に着手していただくことを提言します。

### 2. 官民連携の災害ケースマネジメントに向けた体制を整備すること

東日本大震災以来、被災者一人ひとりの状況や課題を把握した上で、関係者と連携しながら継続的に支援することで被災者の自立・生活再建を目指す「災害ケースマネジメント」の重要性が認識され、内閣府の防災基本計画などに取り入れられるようになりました。

能登半島地震の避難者受け入れにおいても、取り残される被災者を生まないために、早い段階から災害ケースマネジメントが実施されなければなりません。その円滑な実現のため、早期に支援者間における調整が必要となります。

については貴庁が中心となり、東日本大震災後に広域避難者支援を行っていた民間の力も活用しながら、官民協働や自治体間の連携を行うための体制を整備することを提言します。その際に必要があれば、当法人も微力ながらご協力できれば幸いです。

以上

は100人以上知っていることを明かし、登録する人の思  
い次第であること、避難先が  
複数回重なることで、避難者



数からもれていることも話されました。

避難している方々は、困りごとが次から次へと出てきてしまうこと、時間の経過とともに、孤立が深まり、困りごとが増えている人のほうが多いのではないかとのことです。住宅、仕事、教育で悩んでいた人たちが、さらに生活困窮体調悪化、高齢化などの問題を抱えているそうです。加えて、「語りづらさ」を抱えていること、言葉にすることが難しい社会なのではないかと話され

ました。

「福島に帰りたい」でも放射能が怖い。双葉町にずっと帰りたいけれど、それを言うことで、周りの反応がとも怖いと、澤上さんはいいます。帰りたいという一言さえも、言うことが難しい状況があるそうです。朝、目が覚めて「あ、なんでここに居るの?」ということを、いまだに、たまに思うことがあると語りました。

福島で生活ができるから、眠っていた方が福島に近いのかなと思ったりすることもあると語る澤上さんの言葉が印象的でした。また、悟られないように明るく振る舞う人がいることも話しました。澤上さんは、この日の夜、能登半島にミカンを届ける予定でした。避難している人たち「何か力になりたい」と箱詰め作業を、自分たちの経験を誰もしないように、あるいは避難先で生きていることも伝えたいという思いで手伝って

れていると話していました。避難者一人ひとりが違うこと、発する言葉だけでは困っていることが分かりづらいこと、どういった価値観を持ち、どういう思いで避難をしているかなど、見えない部分を理解して想像し、聞いていくことが、避難者支援は必要だと話されました。また、民間の力だけでは支えきれない部分があり、公的支援と一緒にやっていかなければ不可能であることにも言及されています。

(編集部 吉田)

# 各地からのお便り

『福玉便り』では2012年3月の創刊以来、埼玉県内各地の交流会情報をカレンダー・マップでご紹介してきました。東日本大震災・福島原発事故から13年を迎えるにあたり、各団体の皆さんからメッセージや写真をお寄せいただきました。3・4月の交流会情報とあわせて掲載します。長かったコロナ禍もようやく落ち着き、今年はい前のように各地で交流会が活発に開催されることを願っております。読者の皆様もぜひメッセージをお寄せください。

## ① 双葉町民によるボランティアアカフエ(加須市)

090-5356-8778 (鶴沼さん)

## ③ 双葉町手芸教室(加須市)

長年続いているため、「さて、次は何にしようか??」とずっと頭を悩ませています。おしゃべりする話題には事欠きませんが、今年も元気で集まりたいと思います。一年の最初の作品は、龍の切り絵です。



3/26 (火)、4/23 (火)  
10:00~12:00  
双葉町社会福祉協議会加須事務所  
所  
080-5532-7380 (薄井さん)

## ⑤ すくすくのあそび広場(加須市)

090-2411-8598 (戸恒さん)

## ⑭ 春日部つながりカフェ(春日部市)

## ⑯ あゆみの会(越谷市)

3/10 (日)  
ジャガイモの植付と花田4丁目  
自治会交流会  
090-9425-2001 (石上さん)

## ⑩ くまがや結の会(熊谷市)

埼玉県に被災者の会を充足して13年目の新年元旦に、能登半島地震が発災し一瞬にして尊い人命と財産が奪われました。連日のTV放映が生々しく悲惨な光景に目を覆い涙して痛感しました。新年2日には想像を、絶する航空機事故が起きアクシデント続きに新年の挨拶(おめでとう)は消えてしまいました。「天災」と「人災」は時、場所を選ばず襲って来ます。明日は我が身かと。あの日の体験を知っている私共は、現在、次の世代に引き継いで行かねばと想いを新たにしている所です。「くまがや結の会」は昨年コロナが5類になり交流会や女子会活動、音楽鑑賞、日帰り旅行等を企画して楽しくより一層の親睦を深めています。



3/7 (木) 交流会&ランチ会  
11:00~ 和とう肥塚店  
090-7661-9236 (林崎さん)

## ⑥ オバトン(加須市)

オバトンは城西高校が避難所の時にコープみらいが募集した際、知り合ったメンバー9名で運営しています。せんだん広場からキャッスルきさいに移動し現在食事交流会を月2回行っています。いろいろなことありながら前向き進

んでいる双葉町の方から教わる事もたくさんあります。お互いに連絡し合いながら参加しています。声が出にくいから合唱に、逆に手話で歌を。また展覧会に出品の塗り絵に取り組んだりとその日の様子で皆さん参加しているようです。今の課題は高齢になり会場までの足の確保です。加須市のサービスなどを考えているところです。これまで通り第二火曜日、第四木曜日に開催します。

3/12 (火)、3/28 (木)、  
4/9 (火)、4/25 (木)  
10:00~15:00  
キャッスルきやう  
090-6526-8560 (藤井さん)

※今年度はコープみらい助成金(社会貢献活動助成金制度)の支援を受けて活動しています。

⑱ **ひまわりの会**(川口市)  
080-5431-0123 (島田さん)

⑲ **さいがい・つながりカフェ**  
工(さいたま市)

私たちは、東日本大震災(2011年3月11日)の起きた、その年の秋から毎月、埼玉県男女共同参画推進センター「WithYou さいたま」

(さいたま新都心 ホテルブリランテ武蔵野3・4階)の和室で「さいがい・つながりカフェ」を開いています(毎月、第2木曜と第4木曜、午前11時から午後3時まで)。



特に決まったプログラムはありませんが、食事、おしゃべり、歌、手作り、体操など、楽しく口と手と身体を動かしています。  
2月4日(日)WithYouさいたまフェスティバルでは、4年ぶりに「さいがい・つながり合唱団(カフェ有志)」で歌いました。はじめに能登半島地震で亡くなられた方への黙祷をささげてから、「翼をください」「涙くんさよなら」「学生時代」「この広い野原いっぱい」「四季の歌」「たんぽぽ」「アンコール」今日の日はさようなら」を、観客のみ

なさんも一緒に歌っていただき、楽しいひと時を過ごしました。  
3月、4月のカフェへ、お出かけください。

3/14 (木)、3/28 (木)、4/11 (木)、4/25 (木)  
WITHYOUさいたま4階和室  
11:00~15:00  
080-5532-7380  
tunagari.saitama@gmail.com

⑳ **新座つながりカフェ**(新座市)  
090-2402-9155 (谷森さん)

㉑ **青空あおぞら**(所沢市)

㉒ **おあがんなんしよ交流会**(ふじみ野市)  
090-5345-8408 (松館さん)

㉓ **ニジカフェ@川越**(川越市)

元旦から能登半島地震の速報を受け、被災された方のお気持ちを考えると胸に鉛でもあるような日々を送っております。

支援が遅く孤立している方や体育館で雑魚寝している姿、津波で原形をとどめない街並みなど、ニジの事がフラッシュバックして心が

晴れずにいる方が多くおります。不便でも避難せずに留まり復興を目指している方々のインタビューを見て、どうか今を耐え抜いて頑張って頂きたいという思いは同じでした。

私たちも放射能の危険が無ければ避難はしなかったはずだから気持ちすがすごく分かれると話し、同じ複合災害でも大きく違うのは、私たちは原発被害者なんだと痛みを分かち合いました。

3・11で石川県へ避難した方もおり、「災害はいつでも誰にでも何度でも起きるんだ」と常に防災意識を持ち生活していかなければと気を引き締めました。

3/29 (金) 第12回 福島復興まつり  
10:00~16:00 ウェスタ川越  
チケット1,000円

pororon311@gmail.com  
070-5080-4494 (鈴木さん)

㉔ **玉兔の会**(さいたま市)

048-854-8703 (小林さん)  
https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

# ⑧東日本大震災に咲く会 ひまわり

(上尾市)

年が明けたばかりの1月1日、夕闇迫る能登半島を大きな地震が襲った。続いて引き起こされた津波で東日本大震災を思い起こされた方も多かったのではないだろうか。原発事故には結びつかなかったものの、その被害は時間を追うごとに悲惨な状況を露わにした。

地震発生から1ヶ月余りが過

## 私たちはここにいます

なくしたものは大きいね  
心に穴が空いたよう  
目に映るもの 儂く見えて  
涙に暮れる あの日から

歌はどこかへ消えてゆき  
花はどこかで枯れてゆく  
目に映るもの 儂く見えて  
涙に沈む あの日さえ

どこに  
君たちは どこにいる  
同じ想い持つ君の  
押しこぼされた 心の叫び  
闇の間に間に聞こえる

ぎた頃、福玉編集部から福玉便り掲載のメッセージ依頼が届いた。何について、どう書けばいいのか解らないまままでいたが、暫くして「私たちはここにいます」という曲の歌詞を送ることにした。

この曲は2012年12月15日に開かれた「鴻巣・上尾合同クリスマス会」を基に出来た歌である。震災から1年9ヶ月。福玉会議で知り合った会の結び付きが背景になっている。当日は鴻

向かうべき方 解らずに  
向かうべき事 見えずとも  
新たな陽射し 体に浴びて  
傷付く心 癒してく

聞こえてるかい 僕の声  
聞こえているよ 君の声  
新たな陽射し 体に浴びて  
錆び付いたもの 落としてく

どこに  
僕ならば ここにいる  
確かに ここにいる  
残る力の そのすべてで  
また ここから歩き出す

巣市、上尾市、川越市の避難者の参加や杉戸町と富岡町との連携が図られた。

能登半島地震で被災された方々へ。今は明日が見えないでしょうが、我々は震災後、復旧・復興を目指して歩んでいます。

「残る力の そのすべてでまたここから歩き出す」という一節には、その想いが込められおり、メッセージとして贈りたいと思います。

080-3091-6215 (橋やん)

僕は  
息をして ここにいる  
血の通う君といる  
声の限りに 歌い続ける  
君にも響くならいいね

君と  
君たちと ここにいる  
人の輪が ここにある  
今日の

この日を忘れはしない  
確かにみんな ここにいる

(2012年12月24日作成)

## 「読者の声」のお礼と、 ご返送の再度のお願い

『福玉便り』106号に返信用はがきを同封し、読者の皆さんからの声を募集したところ、1月末時点で5名の方からお返事をいただきました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございます。

ただし、折しも能登半島地震の発生と重なって、お返事がご負担になってしまった方もいらっしゃるのではないかとお察しします。そのようなタイミングで重ねて恐縮ですが、もし今からでもお返事をいただけの方がいらしたら、【3月末まで】を目途に、前号同封のはがきをご返送いただいてもよろしいでしょうか？返信用はがきがない場合は、お手元のはがきや便箋に「現在の生活で困っていることや不安なこと、最近感じていること、『福玉便り』へのメッセージ、など」を自由にお書きいただき、NPO法人埼玉広域避難者支援センターまでお送りいただけますと幸いです。

皆様からいただいたお声は、『福玉便り』108号にてご紹介させていただきます。編集部一同、皆様からのお手紙を心待ちにしております。どうぞよろしく願います。

(送付先) NPO 法人埼玉広域避難者支援センター  
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21ときわ会館1F